

政治／経済書ご担当者さま

コラプション

汚職・腐敗をなくすために何をすべきか (仮)

レイ・フィスマン(コロンビア大学ビジネススクール教授)、
 ミリアム・A・ゴールデン(コーネル大学教授)[著] /
 山形浩生(翻訳家)・守岡桜(翻訳家)[訳] /
 溝口哲郎(高崎経済大学准教授)[解説]

本体予価 2,700 円 四六判上製 / 384 頁 ISBN 978-4-7664-2626-7 C0030

👉ココに注目!

- ・「コラプション (腐敗・汚職)」研究の第一人者たちがわかりやすく解説。
- ・世界のさまざまな腐敗・汚職の実証データ、分析ツールを提供。
- ・政治学者と経済学者が協力して「汚職の構造」を明らかにする。

世界の大部分の国が腐敗・汚職に悩んでいる。しかし、汚職を撲滅した国もちゃんと存在する。汚職は、個人の「悪」の問題ではなく、構造の問題であり、法律だけではもちろん止められない。また民主主義でも無くせない。「汚職の均衡」をいかにして転換するか?

「悪」を糾弾するのではなく、「構造」を理解することが汚職撲滅のカギとなる。

📖 類書 スティーヴン・D・レヴィット他『ヤバい経済学 [増補改訂版]』(東洋経済新報社)

👉 営業部からのおすすめポイント、主要目次は裏面に掲載!
 ぜひご確認ください!

👉 ご注文は FAX で! 03 - 3451 - 3124 📠

番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託		レイ・フィスマン、ミリアム・A・ゴールデン 著 / 山形浩生・守岡桜 訳 / 溝口哲郎 解説 コラプション 一汚職・腐敗をなくすために何をすべきか (仮) ISBN978-4-7664-2626-7 C0030	2,700 円	★★★★ ★★★

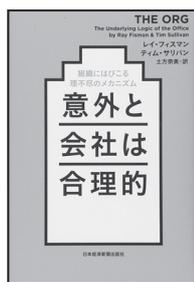
営業部からのおすすめポイント

コンスタントに世間を騒がせる汚職スキャンダル。日本は比較的汚職の国とはされてはいますが、決して無くなりません。本書は、社会が贈収賄の悪循環からどう抜け出せば良いのかを理論的且つ分かりやすく解説します。また、翻訳者の山形浩生氏の選書による刊行記念フェア企画も計画中です。次回新刊案内にて詳細を掲載する予定ですので、ぜひご期待ください!。
(乙子)

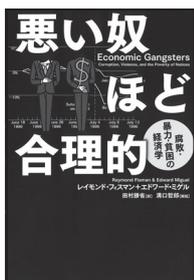
〈主要目次〉

- 第1章 はじめに
- 第2章 汚職とは何だろう?
- 第3章 汚職がいちばんひどいのはどこだろう?
- 第4章 汚職はどんな影響をもたらすの?
- 第5章 誰がなぜ汚職をするのだろうか?
- 第6章 汚職の文化的基盤とは?
- 第7章 政治制度が汚職に与える影響は?
- 第8章 国はどうやって高汚職から低汚職に移行するのだろうか?
- 第9章 汚職を減らすには何ができるだろうか?

〈原著者の既刊翻訳書〉



レイ・フィスマン&ティム・サリバン
『意外と会社は合理的——組織にはびこる理不尽のメカニズム』
(日本経済新聞出版社、2013)



レイモンド・フィスマン&エドワード・ミゲル
『悪い奴ほど合理的——腐敗・暴力・貧困の経済学』
(NTT出版、2014)